

実施事業所名：特定非営利活動法人フトゥーロ LD発達相談センターかながわ 児童発達支援事業所

自己評価実施日：令和6年4月 公開日令和6年4月30日（3段階の評価は12人のスタッフで行いました）

| | | チェック項目 | はい | 中間 | いいえ | 分からない | 改善目標、工夫している点など 赤字は今後に向けてのスタッフからの提案 |
|----------|---|---|----|----|-----|-------|---|
| 環境・体制整備 | ① | 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか | 10 | 1 | 0 | | <ul style="list-style-type: none"> ●運動専用のスペースはないものの、活動内容に応じて小さな教室と大きな教室を使い分けている。 ●年に数回は近隣の公園で走り回れるような活動を取り入れています。 ●活動内容やお子さんの状況により、小さな部屋の活用（母集団をさらに小さくすること）も可能です。 |
| | ② | 職員の配置数は適切であるか | 12 | 0 | 0 | | <ul style="list-style-type: none"> ●法定人数に加えて、2名の加配で届け出ている。6人で行うグループでは4人のスタッフで行っている。 ●年度を通じて基本的には担当者を変えずに指導に当たっています。 |
| | ③ | 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか | | 10 | 2 | | <ul style="list-style-type: none"> ●建物自体が古いため、変更の難しい面が多いが、赤ちゃん連れの方は2階で行うなど移動の負担が少なくなるよう工夫しています。 ●トイレについてはリフォーム予定です。 |
| 業務改善 | ④ | 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか | 9 | 3 | | | <ul style="list-style-type: none"> ●各自が、年間目標（深めたい分野や実践）を立て、それを皆で共有し、次の年に振り返りをし、児発管と共有しています。 |
| | ⑤ | 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか | 10 | 2 | | | <ul style="list-style-type: none"> ●年度末のアンケートを、年度途中にも行うようにするとよいかもしれない。 令和4年度から自由記述欄を大きくしたが、今年度も様々なご意見をあげてもらえてよかった（アンケートは無記名） ●支援計画に書かれたコメントなども、複数のスタッフで共有し、改善につなげている。 |
| | ⑥ | この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか | 12 | | | | <ul style="list-style-type: none"> ●公開している。 |
| | ⑦ | 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか | | | 5 | 7 | <ul style="list-style-type: none"> ●行えていない。まずは制度の理解をしっかりとしていきたい。 |
| | ⑧ | 職員の資質向上を行うために、研修の機会を確保しているか | 9 | 3 | | | <ul style="list-style-type: none"> ●年に1回、全員のスタッフが集まって行う研修は、コロナ禍ではあったが令和5年度も行った。 スタッフは外部研修への参加した場合の参加費の補助も行っている。 ●年度に3～4回外部のスーパーバイザーの訪問も得ている。 ●職員の経験、知識、資格の有無などを考えて時には初歩的なもの、より専門的な内容など研修の内容にもっと幅があるとよい。 |
| 適切な支援の提供 | ⑨ | アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、発達支援計画を作成しているか | 11 | 1 | | | <ul style="list-style-type: none"> ●発達水準や認知特性を踏まえた個別指導計画をたてるために指導開始や後期に、田中ビネー、SM社会性能力検査、WISC-IV、KABC-II、LCスケール等を公認心理師や臨床心理士の資格があるスタッフが実施している。 ●支援計画を作成するとき、共通の項目を用いることで統一された支援目標を考えることができていると思います。 ●アセスメントは児発管によって適切に行われているが、お子さんを担当するスタッフへの伝達や理解はより工夫が望まれる。 |
| | ⑩ | 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか | 10 | 2 | | | <ul style="list-style-type: none"> ●使用することが多いのはJSI-R、太田ステージ、SM社会生活能力検査などです。 ●アセスメント担当のスタッフだけではなく、職員全体がアセスメントツールを共有したい。 ●状況把握のスキル向上は個々のスタッフに求められる。 |

| | | | | | |
|---|--|----|---|----|--|
| ⑪ | 活動プログラムの立案をチームで行っているか | 10 | 2 | | <ul style="list-style-type: none"> ●毎回の終了後のミーティングに加えて、年に3～4回プログラム作成のためのミーティングを行っている。年度が変わるときに担当者が変更する場合の申し送りは丁寧に行っている。 ●スプリングスクールなどある程度内容が決まっているものでも、お子さんに応じたプログラムを立案している。 |
| ⑫ | 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか | 11 | 1 | | <ul style="list-style-type: none"> ●対象の子供の状況や成長に合わせ個別支援計画の見直しを年度に2回行っている。同じ工作でも（季節ものなど）お子さんのレベルによって、作業内容を変えている。 ●同じ活動でも個々に合わせた内容に変化させている。 ●支援計画の見直しを保護者で行う際には、前期と後期の違いを分かりやすく伝えるようにしている。 ●グループ指導に参加しているお子さんたちでも、個々に重きを置くべきものは何かを考えてから指導プログラムを立てています。 ●年間計画の中で順次変化を持たせるように立案しています。 ●複数人で行うことでプログラムの固定化されないように工夫しています。 ●プログラムの内容はお子さんの状況で臨機応変に変更している。 |
| ⑬ | 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ 細やかに設定して支援しているか | 12 | | | <ul style="list-style-type: none"> ●長期休暇の過ごし方についても、面談などで助言を行い、また家庭の状況や親御さんの希望に合わせた宿題も作成している。宿題の提案や電話、オンライン面談（特別な場合のみ）を行っている。 ●長期休み等には、保護者の希望に応じて生活スキルや認知学習レディネス、運動領域の課題をお渡ししています。 ●親御さんが家庭内で忙しいとき（家事等）も「～をしてひとりで待っている（一人遊びがしずかにできる）」ことが難しいお子さんには、折り紙やぬり絵などの遊びに興味を持てるように指導内容を工夫した。 |
| ⑭ | 子どもの状況に応じて、個別と集団を適宜組み合わせて支援計画を作成しているか | 12 | | | <ul style="list-style-type: none"> ●個別指導のお子さんも集団での指導が経験できるように、同年齢の児の個別指導を同時間に設定し、後期にはミニ集団指導の時間をとっている。 ●集団内に個別の時間を設け、そのお子さんの特性に合わせた認知トレーニングを行っている。 ●グループ指導の場合でも、お子さんたちの様子や人数等により集団（3～4人）と個別を臨機応変に行えていると思います。 ●一緒に楽しめる、関われる場面を選び、個別指導とペア指導が併用できるよう時間設定や実施教室の背択などに配慮した。 |
| ⑮ | 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか | 12 | | | <ul style="list-style-type: none"> ●各プログラムの進行担当より、その日の流れを確認してからスタートしている。 |
| ⑯ | 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか | 12 | | | <ul style="list-style-type: none"> ●支援終了後の振り返りは、次回への打ち合わせも含めるとリーダースタッフを中心に1時間程度行っている。 |
| ⑰ | 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか | 12 | | | <ul style="list-style-type: none"> ●書式は記入しやすさと確認しやすさを基準に年度ごとに見直しています。 |
| ⑱ | 定期的にモニタリングを行い、支援計画の見直しの必要性を判断しているか | 11 | 1 | | <ul style="list-style-type: none"> ●相談事業所からの要請があったケースでは電話で対応しています。 |
| ⑲ | ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っているか | | 2 | 10 | <ul style="list-style-type: none"> ●ガイドラインへの認識があまりありませんでした。 |

| | | | | | | | |
|--------------|---|---|----|---|---|---|--|
| 関係機関や保護者との連携 | ⑳ | 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか | 1 | 3 | 1 | 8 | <ul style="list-style-type: none"> ●フォローが必要な方の会議（区、療育センター、在籍園）などには担当者が都度出席しています。 ●相談支援事業所とのつながりは少ないが、セルフプラン作成に関しては親御さんを支援しています。 |
| | ㉑ | 園との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか | 9 | 3 | | | <ul style="list-style-type: none"> ●関係機関連携に行く前には限られた時間を有効に使うために、電話でお子さんの様子を事前にうかがってから訪問するようにした。訪問相談支援の事業所になってはどうか。 ●フットワークでの取り組みをお子さんの普段の生活に活かせるように、保護者からの依頼があれば「支援報告書」を作成した。 ●就学時には支援報告書を作成し、情報共有を図りました。 ●メールでのやりとりも増えています。 |
| | ㉒ | 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医と連絡体制を整えているか | | | | | 対象児なし |
| | ㉓ | 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか | | | | | 該当ケースなし |
| | ㉔ | （地域自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか | | 2 | 1 | 9 | <ul style="list-style-type: none"> ●子育て支援拠点（十日市場；いっぽ）や区内の障害児通所支援事業所の会合に参加しました。 |
| | ㉕ | 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか | 12 | 0 | | | <ul style="list-style-type: none"> ●定期的に保護者懇談会や個別面談の時間を設けている。又必要に応じ子育て相談等を追加で行い、個別的な配慮を行っている。 ●毎回活動後に、その日のお子さんの様子を伝え、保護者からは園や家庭での様子を聞いている。 ●保育園や幼稚園での様子を聞きとれていると思います。 |
| 保護者への説明責任等 | ㉖ | 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか | 10 | 2 | | | <ul style="list-style-type: none"> ●保護者の方に有益な情報（書籍、動画）などがあれば紹介している。 家庭での対応に、ペアレントトレーニングの考え方を取り入れたやり方を、面談時に紹介することがある。 ●親御さん同士の交流の場でもある保護者会ではテーマ（年長児であれば就学に向けて等）を設定して、皆さんに考えてもらったり、情報共有したりしています。 ●必要に応じて、面談の中で対応する上での具体的な工夫など、ご相談に応じている。 ●保護者会の場では、お子さんもその場にいることが多かったため、個々の対応が多くなった（グループ皆さんでお話するというよりも）。 ●「困っていない」と思っている保護者へのアプローチが難しいことがありました。 ●子育ての目標などについて、保護者にも設定してもらいスタッフと振り返るようにするのもよいかもしれない。 |
| | ㉗ | 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか | 12 | 0 | | | <ul style="list-style-type: none"> ●利用時、指導開始時、又変更があった場合その都度口頭又は書類で伝えている。実費の徴収を行う場合も、内訳や納入状況を書面でやり取りしている。 |
| | ㉘ | 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか | 11 | 1 | | | <ul style="list-style-type: none"> ●活動後の報告の中でお聞きしたことや、事前に用紙等にご記入いただいていたことについては、面談時に詳しくお聞きするように努めている。 ●グループの保護者会の場だけでは対処しきれない場合には、個別に教育相談の場を設けている |
| | ㉙ | 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか | 1 | 4 | | 7 | <ul style="list-style-type: none"> ●フットワーク通信というニュースレターを年度に3回発行し、色々な年齢層のお子さんの活動の様子を紹介している。 ●個別指導のみでご利用のご家庭からは「もっと、他の保護者との交流の場が欲しい」という回答が毎年上がるものの、難しいことが多い。 |
| | ㉚ | 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整 | 2 | 3 | | 7 | <ul style="list-style-type: none"> ●保護者からの要望や相談には、複数のスタッフで対応するようにしています。 |

| | | | | | | |
|---------|--|----|---|---|---|---|
| | 備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか | | | | | <ul style="list-style-type: none"> ●契約時に苦情窓口（横浜市）の周知を意識している。 ●市の苦情窓口については、契約時以外に保護者会や面談などでも周知してはどうか。 |
| | ③① 定期的に会報等を発行し、活動概要は行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか | 11 | 1 | | | <ul style="list-style-type: none"> ●グループごとに定期的に活動内容をまとめたプリントを配布している。 |
| | ③② 個人情報に十分注意しているか | 12 | | | | <ul style="list-style-type: none"> ●電子データ、ファイル等を外部に持ち出さない事、紙のデータは原本を回覧し、コピーを取らないことを徹底し、職員にも、毎年度誓約書（情報の取扱いについて）を記入してもらっている。 |
| | ③③ 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか | 11 | 1 | | | <ul style="list-style-type: none"> ●弱視のお子さんにはタブレットや拡大プリント、別の機関で練習している道具を使う等のことを行いました。 |
| 非常時等の対応 | ③④ 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか | 1 | 4 | 1 | 6 | <ul style="list-style-type: none"> ●緊急時のマニュアルは整備しているが、保護者への周知までは行き届かなかった。昨年度からの引き続きの課題。 ●保護者以外の送迎（祖父母。ファミリーサポート等）の場合もあるため、周知の必要性が増えている。ファミリーサポートの方にも広域緊急避難場所の確認をお願いした。 ●送迎ボランティアなどを利用しているお子さんに関しても、緊急時の引き渡しに関する取り決めは周知してもらっています。 |
| | ③⑤ 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか | 12 | | | | <ul style="list-style-type: none"> ●すべてのお子さんが必ず年2回は訓練に参加している。スタッフ向けの避難訓練の流れについての動画などを作成し、漏れがないように努めている。 |
| | ③⑥ 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか | 10 | 2 | | | <ul style="list-style-type: none"> ●令和5年度は、虐待防止委員会主導のもと職員研修を行うことができた。 |
| | ③⑦ ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか | 4 | 4 | | 4 | <ul style="list-style-type: none"> ●事例集はできていないが、指導記録に記載し、その都度改善している。 |